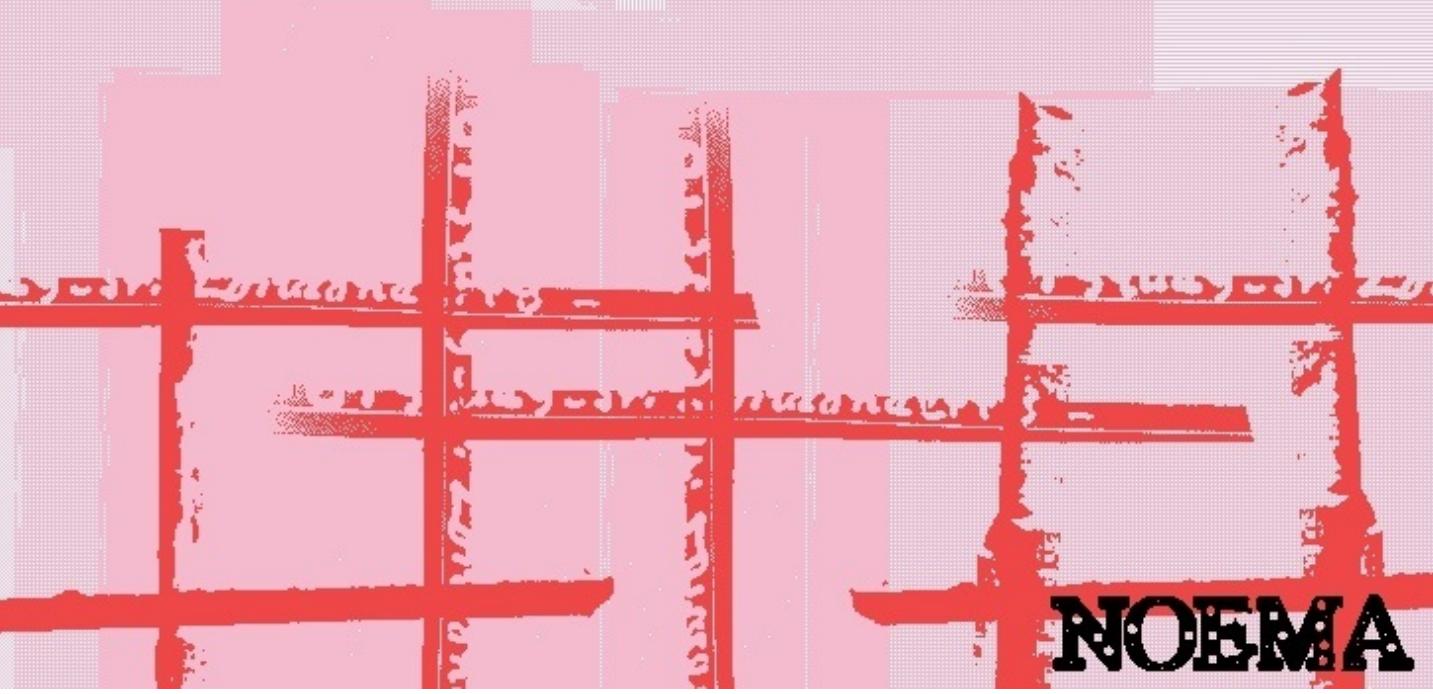


# Vividness & Darkness



NOEMA

•目次と前詠み•

•Prologue•

PAGE1(1). 目次と前詠み

PAGE2(2). 始まりの詩 -Prologue-

•Vividness•

PAGE1(4). 今までの夢から

PAGE3(6). 恋愛論

PAGE5(8). NATURA

PAGE7(10). ほんとはあのね

PAGE9(12). 咲き

PAGE11(14). 溶けないうちに

PAGE13(16). 木漏れ日と暁の空

PAGE15(18). RE+STAR

PAGE17(20). こんな物語

PAGE19(22). 穏やかな風

PAGE21(24). 萌黄色

•Darkness•

PAGE1(26). 間への誘い

PAGE3(28). The Rabbit Gentleman

PAGE5(30). )幻雨壁

PAGE7(32). Longing

PAGE9(34). Maidan

PAGE11(36). 墓樂

PAGE13(38). Down to the hell

PAGE15(40). 醜い交差

•Epilogue•

PAGE1(42). これから詩 -Epilogue-

PAGE3(44). お礼と後詠み

【()内数字は全体のページナンバー】

《前詠み》

この度は、この詩集を手にして頂き誠にありがとうございます。  
色彩から来る感覚をテーマにしたものを連ねさせて頂きました。

この詩集は電子書籍はどのようなものか？を知るために製作したところもありますのでPDFファイル、ePubファイルをダウンロードしたのちに専用ビュアでの閲覧をお勧めいたします。

それではどうぞお楽しみください。

**NOEMA**

『始まりの詩』  
～プロローグ～

-始まりの詩-

黒 白 桃色 気持ちの色を たくさんの中を 言葉に乗せて  
そんな あなたの想いを わたしの想いを 音色に乗せて  
これからのお冒険譚を きらきらに 伝えられたら 詠えたら.....

『今までの夢から』

今までの夢から これからの歌を歌おう

-今までの夢から-

自分の事を決めるのは怖い事だけど 誰かに決めてはもらえない  
一喜一憂する自分は嫌いじゃないから そういう時間を大切にしよう

他人からみたら小さな事かもしれないけれど  
自分自身を天秤にかけることなんてしたくはない

どれだけの時間が経っても伝えたい気持ちが 僕の言葉を繋ぐ  
世界中のたくさんの人に伝えたい気持ちを僕は奏でよう

今までの事から これからの物語を歌い紡ごう  
今までの夢から これからの物語を歌い始めよう

素直じゃない自分を受け入れてもらう事は 難しいから素直になりたい  
歌だけじゃ伝わらない事もあるだろうけど 今の僕は歌い続けよう

一人語りや自分語りだけじゃなんの重みも厚みもないけれど  
まだまだこれからこの想いを、出来事を、繰り返す、伝える

ここにいるたったひとつの個性が伝えたい気持ちを僕が歌う  
世界中のたくさんの個性が伝えたい気持ちを僕は奏でよう

今までの事から これからの物語を歌い紡ごう  
今までの夢から これからの物語を歌い始めよう

どれだけの言葉を繋げても、どれだけの歌を繋げても  
そこにいるたった独りだけじゃ何も生まれない

愛情や友情をつくるきっかけはどこにでもあるはず  
繰り返し繰り返し歌うことで世界中に声は届くはず

ハイトーンの高らかな音色がどこまでも届くように  
ビブラートの繊細な音色どこまでも届くように

今までの事から これからの物語を歌い紡ごう  
今までの夢から これからの物語を歌い始めよう

いまはまだ弱くて未熟な僕達のプロローグのように  
生まれたての想いを綴った物語のプロローグのように

からの歌から 僕の気持ちが皆に響くように  
からの歌から まだ知らない君に届くように

## 『恋愛論』

それでは、論じてみましょう

-恋愛論-

さみしいときに一緒にいてくれるのがうれしくて  
君の背中に甘えたくなる

でもね それはいけないこと

君は君で私じゃない

いろんな色が混ざって愛はできる  
二人の色が混じりあって愛は育つ

互いのことが互いに見つめていくことが大事  
恋は盲目なんていうけど、君の目をいつまでもみつめていたい

二人の想いが通じ合う関係  
いつかはそんな二人になりたいな

つらいときに一緒にいてくれるのがうれしくて  
君の前で涙をながした

でもね それはいけないこと

君に心配をかけたくない

いろんな気持ちがある二人だから  
二人の感情は混じりあって愛は育つ

一緒にいる時間は大切だけど二人の気持ちはもっと大事  
恋は切ないものなんていうけれど、君をみつめていると幸せになる

信じ続けることができる関係  
いつかはそんな二人になりたいな

パステルカラーで描いた恋愛  
君と二人でいくつも季節を越えたいな

春と秋が好き  
夏と冬が好き

恋心は季節を巡る  
きっと君と巡る

『NATURA』

らんらん らーらー ららるんるん

-NATURA なちゅら-

こんな時間に 起きています  
ベッドのなかで 目がさえました

ほんとはね 明日の事が 楽しみです  
いつも通りの普通の日 そういう明日のはずだけど

ただただ そういう 気分です

せっかくだから 歌いましょう  
小さな声で歌いましょう

らんらん らーらー ららるんるん  
どんどん 眠りが 近くなる・・・

空に朝日が 昇ります  
ベッドのはしで 丸くなります

ほんとはね 明日は君と 会える日です  
君に会える普通の日 そういう明日のはずだけど

ただただ そういう 気持ちです

せっかくだから 歌いましょう  
小さな声で歌いましょう

らんらん らーらー ららるんるん  
どんどん 眠りが 深くなる・・・

ジリジリ 韶く 目覚まし時計

やっぱり今日は 普通の日  
君と会える 普通の時間

らんらん らーらー ららるんるん  
そういう 今日が 楽しみです

らんらん らーらー ららるんるん  
そういう 気分の 一日です

『ほんとはあのね』  
めがね・・・めがね・・・どこおいたの？

-ほんとはあのね-

あれ？ そういえば メガネどこにおいたっけ？  
そういう言葉が 心にしみるんだよ  
あなたは わかってないの？

何気なくあなたが言う自然な言葉  
私はすごく好き

大切なメガネと大切な私  
私に夢中だからって  
メガネを忘れちゃう そんな君

ほんとはあのね  
あなたのメガネを隠したのは私

ねえ さっき きみの好きな紅茶買って来たよ  
そういう言葉が心をうるおすんだよ  
あなたはわかっているよね？

あなたに想われてると実感できる言葉  
私は、すごく好き

そんなあなたが大切な私  
私に無中だからって  
紅茶は入れてくれない そんなあなた

ほんとはあのね  
あなたのためにお菓子の練習しているよ

いつかあなたが わたしのために  
紅茶を入れてくれる そんな日が

いつかあなたが わたしのために  
指輪をえらんでくれる そんな日が

かならず来ると 夢見てるんだよ

ほんとにあのね  
大好きなんだよ 内緒だよ？



『咲き』

儂げに、色鮮やかに、咲き誇る

-咲き-

春の終わりを 恋の終わりは  
桜の散るよう 悲しく想う

花は盛りに 咲き誇る  
散るは鮮やか 果敢なさ残る

新芽の息吹は 蒼く鮮やか  
青葉の想いは 新たな心

明日の輝き 思いつつ  
過去の記憶を 詩に思う

桜のような 私の心  
色鮮やかに 咲き誇る  
あなたへ思う 私の心  
色鮮やかに 咲き誇る

うたかた遊戯の ありしの想い  
嵐のように舞い散る 奏で

思いは あつくも 春の嵐が  
動かぬ思いを 崩してく

乙女の心は か弱くもろい  
されども残る 記憶のかけら

ともにうたがいともに苦しみ  
ともに乗り越え ともに逝く

桜のような 私の心  
色鮮やかに 咲き誇る

あなたを思う 私の心  
色鮮やかに 咲き誇る

季節は変わる 変わらぬ想い  
どこかへ続く 君への想い

桜のような 私の心  
色鮮やかに 咲き誇る

『溶けないうちに』

アイスクリーム 溶けないうちに 食べましょう

- 溶けないうちに -

毎日が楽しいような 気がしてた  
ふと振り返ると アイス2個

何を得たのか わからない  
そんな自分は だめな僕

本当は寂しい 本当は辛い  
それでも僕は 信じたい

今の自分が 出来る事  
今の自分が やれる事

そう その一歩を踏み出そう  
アイスクリームが 溶けないうちに

毎日が不安なことに 気が付いた  
ふと見直すと アイス2個

いつからあるのか 覚えていない  
そんな自分は だめな僕

本当は切ない 本当は独り  
それでも僕は愛したい

今の自分が 好きな場所  
今の自分が いたい場所

そう その一歩を歩き出そう  
アイスクリームが 溶けないうちに

だから・・・

もう こんな日々を 抜け出そう  
僕は自分で ありつづけよう

そう その一歩を 歩き出そう  
僕の勇気が 溶けないうちに

そう その一歩を 踏み出そう  
僕の心が 溶けないうちに

『木漏れ日と暁の空』

そんなことの繰り返し 空の色と日の光り

- 木漏れ日と暁の空 -

すべての色が  
枯葉色に染まる頃  
あなたの事を  
思い出す

川面に落ちた  
色とりどりの木の葉たち  
純情は薄れ  
二人は気づく

互いに想い合っていても  
避けられない別れ

そんな別れも  
あるかもしれない

すべての事が  
記憶になり始めた頃  
あなたの事を  
思い出した

公園の木漏れ日に  
照らされた木の葉たち  
哀愁は薄れ  
わたしは想う

互いに想い合っていても  
避けられない結果

それは幸せな  
ひと時だったと

一瞬のきらめき  
一瞬のかがやき  
刹那の時間が  
連なる世界

いつもと同じ  
変わらない夜明け  
空が暁色に  
染まる時間

毎日を知らせるために  
さえずる小鳥たち  
日常は流れ  
明日を想う

互いに違う 別の道に行く  
それも また必然

そしてまた違う  
大切な人と出会う

一瞬のきらめき  
一瞬のかがやき  
刹那の時間が  
連なる世界

あなたの  
記憶が薄れて  
すこしずつ  
想いが震む



『RE+STAR』

忘れたくない　忘れられない　夜空

— RE+STAR —

夜空を 飾る星たちを  
凍える想いで 見上げた

いつまでも 忘れられない  
あの夜の赤星 胸の深くに 刻まれる

厚着を 着込んだ僕たちは  
月の無い夜に 集まった

いつまでも 忘れられない  
あの夜の青星 胸の深くに 刻まれる

月の光りが 消えた夜には  
夜空の星は 輝き揺れる  
大きな光は 空を彩る

時間を 刻んだ僕たちは  
夜の高台に 集まった

これからも 忘れられない  
僕らの記憶 再び胸に 舞い戻る

月日を 重ねた僕たちは  
月の無い夜に 集まった

いつまでも 忘れられない  
あの夜の風景 胸の深くに 舞い戻る

月の光りが 消えた夜には  
夜空の星は 輝き放つ  
小さな光は 空を歌う

空いっぱいに 映し出された 冬の記憶  
またいつか この記憶に 会いに来よう

月の光が 消えた夜には  
天の赤星 輝き放つ  
大きな光は 空を彩る

月の光が 消えた夜には  
天の青星 輝き踊る  
大きな光は 空を歌う

『こんな物語』

ふと 振り返ると こんな物語

-こんな物語-

僕は 誰にでも 優しいわけじゃないんだ  
君だから 僕は 優しくなれる

そんな僕を見守ってくれる 君が好きだよ  
だからね 君がいるから

僕はこれからも続けられる  
この長い長い旅路を

険しい山も 鬱蒼とした森も  
すこしづつでも 歩き続ける

そして 僕は 想うだろう  
そんな冒険も 君となら楽しめると

僕は 誰にでも 甘えるわけじゃないんだ  
君だから 僕は 甘えられる

そんな僕を 許してくれる 君が好きだよ  
だからね 君がいるから

僕はこれからも続けられる  
この長い長い旅路を

荒ぶる海も 焼け付く砂漠も  
すこしづつでも 歩み続ける

そして 僕は 想うだろう  
そんな冒険も 君となら辛くないと

それから長い時間が過ぎて  
この冒険が 終わったとき

僕らは 別々の道を 行くかもしれない

あの楽しい日々は もう戻らないとしても  
僕は忘れない 君を忘れない

そして 僕は 振り返る  
こんな物語も そう悪いものじゃなかったと・・・

そして 僕は こう想う  
こんな物語も そう悪いものじゃなかったと・・・

『穏やかな風』

そう あなたにも きっとその風が 吹くはず

-穏やかな風-

まっすぐな想いが  
僕に力を 与えてくれる

すこしだけの優しさがあれば  
進むべき道はわかるはず

どんなに険しくても 我武者羅に行ける  
そして 夢の風景を 仰ぐことができたら・

ゆっくりな流れが  
僕に癒しを 与えてくれる

少しだけの安らぎがあれば  
歩むべき道はわかるはず

どんなに危うくとも 懸命に行ける  
そして 夢の世界を 望むことができたら

僕は 夢を追い続けよう  
僕に力を与えてくれる 大切な皆のために  
君が大切に愛している 幼い僕らのために

そして 浅い眠りから 目覚めた

はっきりと記憶に  
僕の想いは 刻まれた

すこしだけの希望だとしても  
僕のやるべき事はわかっている

どんなに信じても 報われないときはある  
それでも 現実の僕は 進み続けよう

どんなに険しくても 我武者羅に行ける  
そして 夢の風景を 仰ぐことができたら

どんなに危うくても 懸命に行ける  
そして 夢の世界を 望むことができたら

どんなに信じても 報われないときはある  
それでも 現実の僕は 進み続けよう

僕は 夢を追い続けよう  
僕に力を与えてくれる 大切な皆のために  
君が大切に愛している 幼い僕らのために

そして 穏やかな風を 僕は感じた

『萌黄色』

若草が芽生えるように 遠くの声が聞こえるように

-萌黄色-

声が紡ぐ世界

初めて聞こえる

その響き その音色が 聞こえる

芽生え創めた世界

草原に広がる

美しく咲く野薔薇のように 愛らしく

君の伝える世界

吸い込まれるように

僕は 海を望む 窓辺に佇んだ

## 『闇への誘い』

ここからは 別のお話 別の世界 ご注意を……

-闇への誘い-

光と闇

光り差す方向へ行き過ぎると  
勇ましい心ですら蟻のように溶けてしまう

男と女

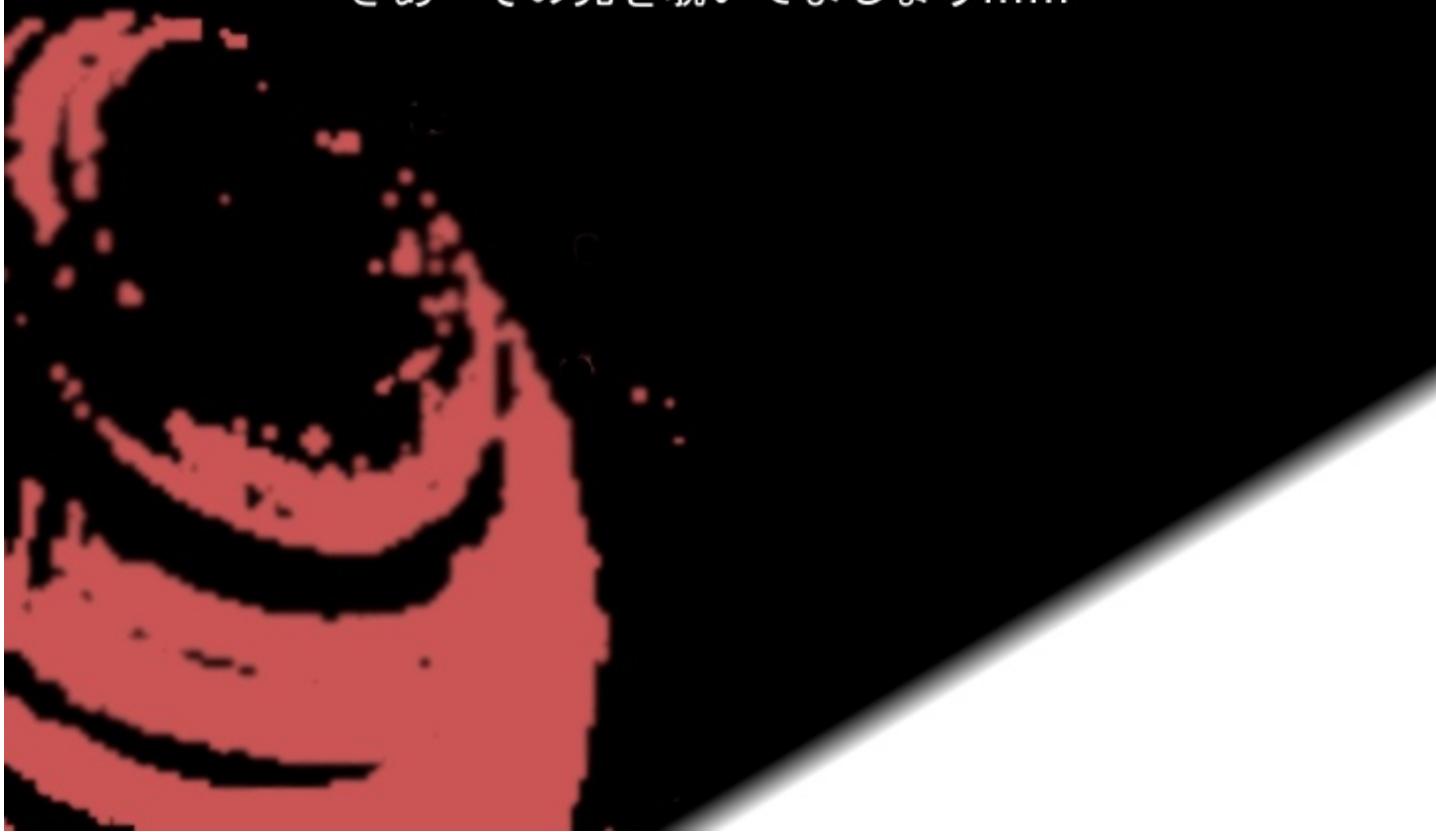
その駆け引きは甘い甘い罠  
その甘みは猛毒のように蝕んでいく

生と死

死をもてあそぶことは  
愚かな人に与えら得た究極の遊び

行き過ぎると 行き過ぎると

さあ その先を覗いてましょう……



『The Rabbit Gentleman』

扉の世界の向こう うさぎの紳士は どこにいる？

-The Rabbit Gentleman-

ノックノックと響く音  
大きな扉の向こうには わたしの知らない世界があるはず

綺麗な彫刻 その扉  
きらきら光の向こうには なんだか不思議な世界があるはず

「ごきげんよう」と、うさぎの紳士

「ここはあなたの願いをかなえる世界  
その報酬はあなたの言葉」

「たったひとつの言葉を あなたから頂ければ  
この世界はあなたの自由のまま」

その言葉を引き換えに 私の願いを届けよう  
その言葉と引き換えに 新しい世界を手にしよう

チックタックと柱時計  
永遠に続くような 普段と変わらない現実が続く

記憶の欠片が 感じる痛み  
さらさら心が元通り あの痛みはどこへいったの？

不思議な世界のうさぎの紳士

ここは私の願いが叶った世界  
思い出せないあの言葉

タッタと響くステップの音 隣人たちの歌う声  
さまようコウモリ おぼろげな月夜

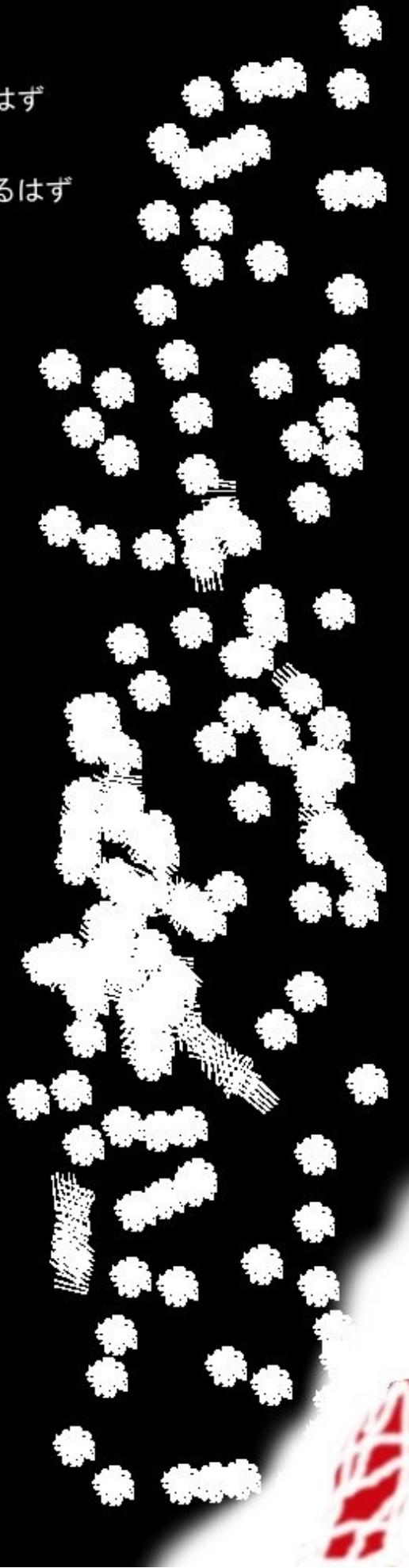
その気持ちを引き換えに 私の願いを叶えよう  
君への言葉と引き換えに 新しい世界を手にしよう

忘れた言葉は 思い出せない  
でもそれはもう必要な無い言葉

そう君はもういないのだから  
君のために用意した言葉なんてもういらない

その気持ちを引き換えに 私が手に入れた世界  
君への言葉と引き換えに 新しい世界になったはず

でも何かが欠けたこの心  
うさぎの紳士はどこにいる？



『幻雨壁』

雨ニサエギラレタ世界

## 幻雨壁 -ゲンウヘキ-

通り雨が奏でるそのメロディーが心を癒す  
愚かな私にやさしく響く

濁流を呼ぶはずのその音色に心は和む  
愚かな私を飲み込むように

激流に響く心臓の音は残酷に刻む  
それでもこの幻想はまだつづく・・・

いっそ きっと もう朽果てたらいいのに  
もっと ずっと 抱きしめてくれたらいいのに

昨日までの世界と明日からの現実  
気高い私を追い詰める

これまでと昨日までと清らかだった私  
気高い私を汚していく

幻の通り雨が過ぎれば残酷な世界  
通り雨の壁に包まれていれば・・・

いっそ きっと もう唇をささげたら  
もっと そっと 消えてしまえばいいのに

通り魔の恐怖に怯える心臓の音

祈りを捧げよう 恐怖の要に  
心を捧げよう 神事の極みに

いっそ きっと もう朽果てたらいいのに  
もっと ずっと 抱きしめてくれたらいいのに

いっそ きっと もう唇をささげたら  
もっと そっと 消えてしまえばいいのに

『Longing』

その想いを 募らせた先は？

-longing-

ビルの上から 影を突き刺し 秘密を重ねる  
インスタンスは 夢の世界から 矛盾に絡まる

時計の針が 僥く刻む  
夢の世界の 奇跡を信じる

昼の横顔 荒んだ視線 リリーを睨みつけ  
闇に溺れて 御伽話の 硝子の靴の夢

南瓜の馬車を 僥く急ぐ  
時の砂を進ませ 闇夜を翔る

焦げ付いた 暖炉が紅く 煙を立ち込め  
麦の香りが 頬を揺らす 闇を彷徨う少女

ネオンに群れる ライオン達 首輪に繋がれ  
煩く吠えて 錐い刃が 闇夜に絡まる

誰にも言えない 僥い魔法が  
小さな現実 深い森の中

西の国から 深い森へと 聞こえる物語  
永遠とも 一瞬とも 感じる時の中

間抜けな少女の 僮い真実  
階段上る 染み付いた憧れ

消えない靴 街に求めて 裸足で駆けてく  
凍りそうに 冷たく痛い 闇を彷徨う少女

在る筈がない 夢を求めて 哀れな王子と  
空想の砂 僮さ着飾る 闇を彷徨う少女



『Maiden』

さて どこに 行こうかしら？

-Maiden-

ぎらぎら燃える  
熱帯夜の月明かり  
破れた赤いドレス  
地を這うようになびく

狼たちが去った  
あの星の浜辺に  
ものうげな面持ちで  
静寂の海に浸る

少女は独り

ごめんなさいと  
唇から漏れる  
風受ける身体  
切り裂かれたように痛む

御伽話の中の  
赤いマントの娘は  
素直な気持ちのままで  
静寂の森を渡る

忘れた想い

きらきら光る  
夜空の星よ  
きらめく光り  
思い出させて

御伽話の中の  
赤いマントの娘は  
素直な気持ちのままで  
静寂の森を歩む

忘れた気持ち

きらきら光る  
夜空の星よ  
きらめく光り  
思い出させて

きらきら光る  
夜空の星よ  
きらめく光り  
思い出させて

ぎらぎら燃える  
熱帯夜の月明かり  
破れた赤いドレス  
静寂の海に・・・

## 『堕楽』

墮ちていく心地よさ あなたには わかる？

- 堕楽 -

わたしは その快樂に 崩れ落ちる

あなたの 細い指が  
わたしの 唇をそっと撫でる

誘うのはわたし  
誘われたのはあなた  
そんなはずだったのに

体が凍り 声すらでない  
何もわからない こどもなわたし

堕楽していく  
くもの巣に墮ちた 蝶の想い

あなたの 熱い吐息  
わたしの 首筋にそっとかかる

攻めるのはわたし  
攻められるのはあなた  
そんなはずだったのに

体が火照り 意識が遠く  
すべてを見つめる あなたの瞳

窮屈な世界 理不尽な世界  
放たれた わたし

堕楽していく  
闇の地に墮ちた 蝶の想い

堕楽していく  
闇の地に墮ちた 蝶の想い

堕楽していく  
くもの巣に墮ちた 蝶の想い

わたしは その快樂に 崩れ落ちる



『Down to the hell』

七つの大罪は 気持ちいいものかも

-Down to the hell.-

I fall to fly over the hell. そう  
I fall to fly over the hell. うん

i Jump down to the hell. もう  
i Jump down to the hell. だめ

背中の翼は だたの飾りなの？  
私は私に 問いかける

空高く飛びたい 天まで飛びたい  
何度羽ばたいても 思い通りにならない翼

戦い続ける事は 翼を広げる事は  
命を守ること 皆を守ること

I want to fly over the sky. そう  
I want to fly over the sky. うん

背中の翼は だたの飾りなの？  
私は私に 問い詰める

空から墜ちていきたい もう逃げ出したい  
何度羽ばたいても 思い通りにならない翼

空から逃げ出す事は 翼を捨てる事は  
天の希望を捨てること 皆を裏切ること

I want to fly over the sky. もう  
I want to fly over the sky. だめ

この声がとどいたなら  
この歌がとどいたなら

どんなに幸せと想うのだろう・・・

この声が 届いたなら  
この歌が 届いたなら

こんな私の想いは微かに・・・

地に落ちた天使は 閻に引き込まれる  
龍の翼を借りて 地を目指す そんな堕天使

閻に囚われた天使は 七つの大罪を持つ  
天使をすてた いまの私は そんな悪魔

I fall to fly over the hell. そう  
I fall to fly over the hell. うん

i Jump down to the hell. もう  
i Jump down to the hell. だめ

『醜い交差』

もういやだ…こんな…ひどい……

-醜い交差-

右手のドリルが  
激しく震える

さらさらとした血が  
固まっていく  
きらきらと降り注ぐ  
あとの人の未来

欲望と愛情の狭間で交差

呪いの言葉

耳から離れない

あなたから素肌の  
感触が消える

どろどろした  
塊が滴り落ちる  
きらきらと降り注ぐ  
あとの人の願い

欲望と憎悪と愛情と交差

醜い姿は血に  
香りが良く似合う

愛の言葉 幸せな日々  
心が満たされた あなたの歌  
遠くへ遠くへ消えていく

聞こえるはずの無い  
祝福のメロディに合せて歩く

鏡に映る悪魔が  
凶器を突き刺す

ぎらぎらした獣へ  
私は墮ちていく  
ざらざらとした手の感触が  
忘れられない

未来と祝福と誓いの乱舞

心が満ちていく  
あとの人の言葉

欲望と愛情の狭間で交差

呪いの言葉  
耳から離れない

欲望と憎悪と愛情と交差

醜い姿は血に  
香りが良く似合う

『これからの詩』

これにておしまい。お付き合いありがとうございました。

-これから詩-

色鮮やかな世界 色とりどりな世界  
水の流れる音 小鳥のさえずる音 たくさんの想い

毎日すべてが生まれ変わる  
そんな世界の必然を そんな世界の美しさを  
涙と共に思い出した

私は.....

もう一度 信じてみよう  
もう一度 進んでみよう  
その一歩を踏み出そう.....

•お礼と後詠み•

最期の後詠みまで読んでいただける方が  
もしいらっしゃいましたらもう感謝のあまりになにかが  
どうにかなりそうなくらいにうれしい限りです。

この詩集は、2010年6月頃にパブーの存在を知り、同時に電子書籍のあり方について自分なりに考えた末、ひとつ作ってみようと思い立った事に始まります。当初は、電子書籍についてなにも知識がなく（現在でもよく似たものですが）まずは何かを書いてみようという軽い気持ちで始めてみました。

書き溜めていた詩をいくつか引っ張り出して再編集することから始め詩の奥深さを再認識していたころに、動画コミュニティサイトであるニコニコ動画で行われている生放送コンテンツでのお話を素材にしてみようと思い立つようになり、たくさんの方々の協力を仰ぎながらここまでこぎつけることが出来ました。

---

この詩集に収めたもののいくつかは、  
ニコニコ生放送で出会った方々に送ったものもなります。

同人活動のようなものをしたことが  
なかった私には大変な心強い味方と  
なっていただき感謝の言葉も思いつかないほどです。

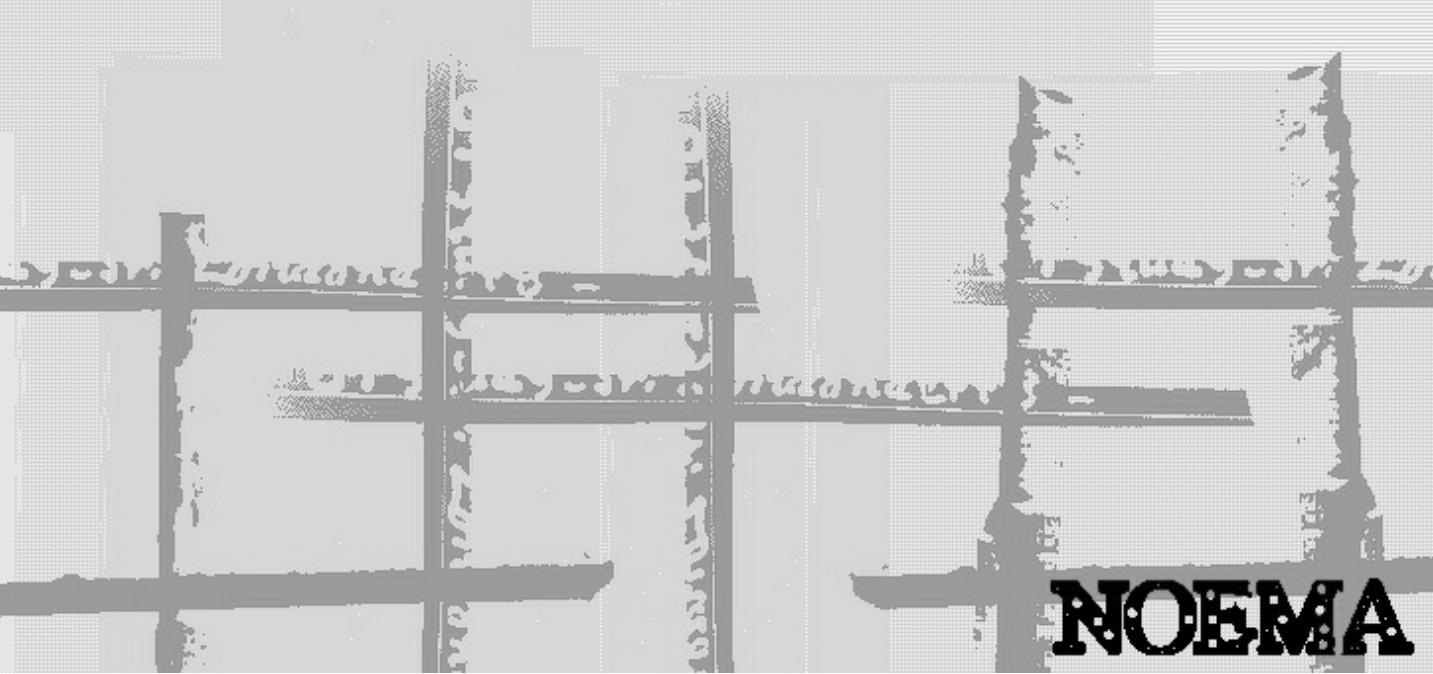
ここまで読んでいただいた皆様  
詠みにくいものもいくつかあったかもしませんが  
本当にありがとうございます。

ニコニコ生放送で出会ったたくさんの皆様  
皆様のたくさんのお話に感動し溢れる想いを分けて頂き、  
本当にありがとうございます。

このような体験をするきっかけになった  
パブー運営者様方本当にありがとうございます。

みなさまに幸せな明日があることをお祈り申し上げます。  
それではまたどこかでお会いいたしましょう。

NOEMA



# Vividness & Darkness

**NOEMA**